

## JOX[石油製品デリバティブ] LPG上場、クリアリングハウスも検討

編集部

インターネットで石油製品のデリバティブ（金融派生商品）取引を行っているジェー・オイルエクスチェンジ（JOX）が市場振興に乗り出しました。クリアリングハウス（清算機関）の設立や液化石油ガス（LPG）の上場などを検討、出来高を増やし「価格の指標性を高める」ことをねらっています。

石油製品の店頭取引（OTC）はいまひとつ盛り上がりには欠けていますが、これらの施策が奏功して出来高、価格の指標性が高まれば、先物取引に好影響を与えるだけでなく、参加企業の経営安定にも資することになりそうです。

### インターネットで取引

JOXは2001年に昭和シェル石油、住友商事といった石油の元売り、石油取扱商社などが設立した石油製品の先物市場。現在、38社が参加しています。商品取引所ではなく、インターネットを使ってOTCと呼ばれる取引所外で取引を行っており、スワップ取引、フォワード（先渡し）取引の2つがあります。設立時、商品取引所で上場されている商品のフォワード取引は禁止されていたので、本社をシンガポールに置きました。ただ、05年の改正商品取引所法の施行で国内でも認められるようになっています。

JOXの取引量はかつて、月間60万キロリッ

トル近くあったこともありましたが、最近は取引が縮小気味となっています。当業者（＝その製品を取り扱っている企業）が中心で、一般投資家が参加していないため、売り買いが一方に偏りがちなことなどがネックとなっています。このため、価格の指標性もいまひとつで、それを打破しようと各種施策を行おうとしています。

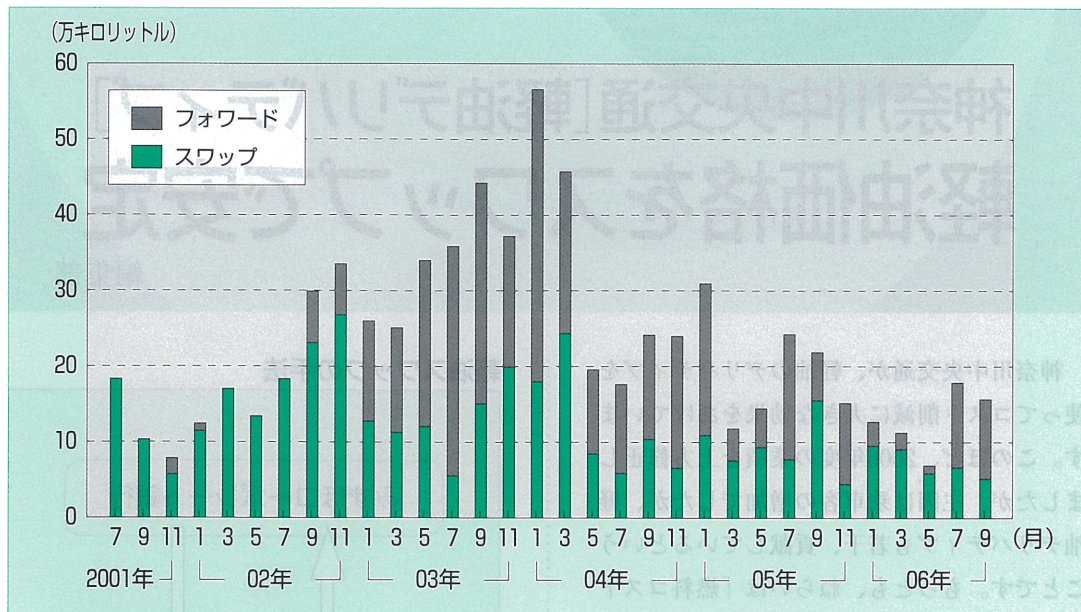
### 手数料下げ、受渡し場所の拡充も

そのひとつが手数料の引き下げです。従来、スワップ、フォワード取引とも、1万キロリットルまでは1キロリットル当たり40円、1万0,001～3万キロリットルは30円、3万0,001キロリットル以上は20円だったのを、2006年4月1日からフォワード取引は2万キロリットルまでは50円、2万0,001キロリットル以上は10円にし、スワップは一律15円にしました。

さらに、関西、関東の2カ所しかない受渡し場所を中部地区にも設けることを検討しています。中部地区は名古屋に中部商品取引所があり、ガソリン、灯油、軽油の3商品を上場しているうえ、スポット取引をするスタンド、卸業者が多く、ニーズがあると考えたからです。

また、クリアリングハウスの設立についても検討中です。クリアリングハウスとは取引

## JOX Deal Volume



する場合、売り手が買い手に直接売るのではなく、取引の相手となる機関のことで、クリアリングハウスが取引の相手方になるので、違約などが起こった場合でも決済ができ、安心して取引できます。世界の主要国の先物取引はみなクリアリングハウスを通して売買しています。

クリアリングハウスの設立を検討したのは、JOXには大小様々な企業が参加しているため、企業別に与信枠を設けるところも多く、これが売買を少なくする要因になっていると考えたからです。ただ、JOXは「会員同士が直接取引することで、コストを抑えている面がある」だけに、クリアリングハウスを設けるとコストがかさむとの声もあり、実現するかどうかはまだはっきりしません。

### 東京工業品取引所も期待

もうひとつ検討しているのがLPGの上場です。2006年7月上旬に東京工業品取引所（東工取）の仲介で輸入・販売業者と意見交換会

を開きました。ここで当業者の意見を聞くとともに契約のひな型などもつくって準備しました。LPGの先物取引については東工取と中部商品取引所が興味を示し、上場に向けて研究会を設けています。「OTCのプラットフォーム（＝取引の土台となるシステム）を持っていないので、それを持っているJOXが取引を開始すれば、先物取引に向けて参考になる」（東工取）と商品先物業界も期待しています。ただ、「LPG業界についてはよく知らないので共通認識を持てれば」ともしています。

LPGのOTCではプロパンとブタンのどちらを上場するか、受渡し条件をどうするかなど、細目についてはまだ決まっていません。また、現在のJOXは石油関連業者が中心で、LPGの業者は石油元売りを取り扱ってはいるものの、LPG業界の企業はあまり参加していません。それだけに、今後、どう展開するかは分かりませんが、上場されればJOXにとってだけでなく、LPG業界、商品先物業界にも大きな影響を与えることになりそうです。